様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９－１、Ｚ－１９　（共通）

科学研究費助成事業　　研究成果報告書

令和　５ 年　６ 月 ３０ 日現在

機関番号：３３９１１
研究種目：基盤研究(C)（一般）
研究期間：2016～2022
課題番号：１６Ｋ０２３８４

研究課題名（和文）中世仏教的観点から見た室町物語本文の総合的研究

研究課題名（英文）A Comprehensive Study of the Muromachi Monogatari from a Buddhist Perspective

研究代表者
箕浦　尚美（Minoura, Naomi）

同朋大学・文学部・准教授

研究者番号：７０４４９３６２

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費）　　3,100,000円

研究成果の概要（和文）：室町物語（お伽草子、中世小説、奈良絵本とも）は、室町時代を中心に15-17世紀にかけて作成された多数の短編小説を指す呼称である。室町物語は当時の知識・教養・文化を大いに踏まえて記されており資料的価値が高いが、作品群全体として捉えるとその研究はいまだ十分ではなく、作品の文化的・思想的背景を理解するためにも中世仏教的観点からの分析が求められている。本研究は、室町物語を仏教的観点から捉えることを目的とし、特に、輪廻転生、因縁、罪業観、霊験譚、経典の引用についての研究を行ったものである。

研究成果の学術的意義や社会的意義
中世文芸研究における仏教的観点の重要性は広く認識されており、室町物語群に対しても同様である。本研究で扱った中世寺院資料は、室町物語からはやや距離があるが、「本地物」と呼ばれる因縁譚や転生譚を中心に据える室町物語を適切に読み解く一助になると考える。また、室町物語に見られるような、現世の不遇を前世の因縁によるとする考え方は人に罪業観を持たせる可能性があるが現代にも存在し、その論理の歴史的検証は現代的課題とも言える。

研究成果の概要（英文）：Muromachi monogatari (also called Otogi zoshi, Nara ehon, or medieval novels) are short stories created mainly in the Muromachi period. Because they were written based on the knowledge, culture, and education of the time, they have high documentary value, but research on them is still insufficient. In order to understand the cultural and ideological background of the tales, it is necessary to analyze them from a Buddhist perspective.
In this study, Muromachi monogatari is approached from a Buddhist perspective, focusing particularly on the view of samsara, sin and karma, spiritual tales, and quotations from Buddhist scriptures.

研究分野：日本文学

キーワード：室町物語　お伽草子　説話　因縁

※科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属します。

様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９－１、Ｚ－１９（共通）

１．研究開始当初の背景

室町物語（お伽草子、中世小説、奈良絵本とも呼称）は、室町時代を中心に 15-17 世紀にかけて作成された短編小説を言い、その作品数は、400 以上に及ぶ。絵を伴う作品が多く、国際的にも広く研究されているが、その物語内容や本文の歴史的価値は、より高く評価されるべきである。

室町物語には、物語の本筋からはずれてまで、知識を盛り込んだり、逸話を長く記したりする傾向があり、そこに当時の知識・教養・文化が多く読み取られることが指摘されている（石川透『室町物語と古注釈』（三弥井書店、2002 年）、斎藤真麻理『異類の歌合わせ　室町の機知と学芸』（吉川弘文館、2014 年）等）。しかし、深く検討された作品数は限られており、特に、仏教的観点からの分析は不足していると思われる。

室町物語作品のうちの 50 程度は、日本古典文学大系（岩波書店）、日本古典文学全集（小学館）などの叢書に注釈があり、ほとんどの作品の概要については、徳田和夫編『お伽草子事典』（東京堂出版、2007 年）により、簡便に知ることができるようになった。しかし、室町物語群の大多数は、『室町時代物語大成』（角川書店、1983-1987 年）、『室町時代物語集』（大岡山書店、1937-1942 年）などで翻刻（読点と改行のみ付加）されたきりであり読みづらい。例えば、『天狗の内裏』の一節に、「しゆら道と申せしは、鬼神の大将、ぢてん鬼神、しよこきん、すじきやう、すしへん、ぢほう、一つし鬼神きよとて数多の鬼神か、あつまりて」（『室町物語大成』九、616 頁）とあるが、下線部は、実は、施餓鬼の時に餓鬼に向けられる「生飯偈」で、「汝等鬼神衆（ジテンキシンシウ）。我今施汝供（コキンスジキウ）。此食遍十方（スジヘンジハウ）。一切鬼神供（イシキジンキウ）」（『諸回向清規式』五（『大正新修大蔵経』八一、六八四頁。括弧内片仮名は同書の振り仮名））である。ここで用いられている読みは、禅宗で用いる唐宋音であり、漢字を予測することが難しい（拙稿「『天狗の内裏』考―物語構造と諸本の生成―」2011 年）。室町物語は、その読解とともに、多方面から研究されるための基礎作業が求められている。

２．研究の目的

室町物語（お伽草子）は、物語の本筋からはずれるほどに、様々な故事因縁や知識を盛り込むという性格を持ち、当時の教養・文化・知識などがちりばめられた貴重な資料と言える。１に述べたように、一部の作品に対してはそうした面からの本格的研究も行われてきたが、作品群全体として捉えるといまだ十分ではなく、特に、中世仏教的観点からの分析が必要である。仏教的観点は、個別の文言の問題だけでなく、作品の文化的・思想的背景を理解するためにも特に必要と考える。

３．研究の方法

本研究では、室町物語群を横断的に調査し、中世仏教的観点からの分析を重点的に行い、室町物語研究の深化を目指した。その具体的方法として、当初、（１）室町物語の校訂本文・引用句データベースの作成と公開、（２）仏教的知識・思想を視点とした室町物語本文の研究、（３）室町物語と関連文献（仏書・説話集）、を計画したが、研究期間を延長して取り組むなかで、（１）については、正確なものを網羅的に公表するのは難しいと考え、個別に問題を掘り下げる形に変更した。近年、情報分野の技術が急速に進んでいることから、本文の整理に関しては、近いうちにより効率の良い方法で進められるようになると考えている。

（２）と（３）に関しては、仏教に関わる用語の使用や経文・説話の引用のような直接的な影響のほかに、異類物の作品、夢告、霊験譚などに見られるような、目に見えないものをどのように捉えるかという視点を加えて検討を行った。

４．研究成果

本研究では、特に、輪廻転生、因縁、罪業観、霊験譚、菩薩行、経典の引用に着目して研究を行った。

研究期間の前半には、論文「お伽草子における過去世の夢告」で因縁譚と霊験譚とのかかわりを考察し、口頭発表「お伽草子と古典の投企」で申し子譚や殺生罪業観の諸相と変容を検討した。また、大阪府河内長野市の古刹、天野山金剛寺に蔵される「佚名諸菩薩感応抄」や「能生諸仏経釈」等に関する研究を通して、経典を説く方法や霊験譚への関心を強め、異類物の作品、夢告、霊験譚などにあるような、目に見えないものを、当時の人達がどのように捉えていたのかに目を向けるようになった（「お伽草子に見る転生観」）。物語と信仰との関係性の分析を今後の課題と考えている。本研究で扱った中世寺院資料と室町物語とにはやや距離があるが、「本地物」と呼ばれる因縁譚や転生譚を中心に据える室町物語を適切に読み解く一助になると考える。

以下、主な研究成果の概要を記す。

（１）箕浦尚美「お伽草子における過去世の夢告」（荒木浩編『夢と表象 眠りとこころの比較文化史』勉誠出版、pp．287-306、2017 年）

お伽草子の申し子譚等で語られる前世の因縁について検討した。前世の因縁譚の多くは、霊験譚

の延長線上にあり、必ずしも女性の罪業観を強調するものではないこと、また、怨念を語る説経の因縁譚とは異なる位相にあることを論じた。

（２）箕浦尚美「菩薩の霊験譚と要文の集成―金剛寺蔵〈佚名諸菩薩感応抄〉の方法―」（『同朋文化』12、pp．93-111、2017 年 3 月）
天野山金剛寺蔵〈佚名諸菩薩感応抄〉（仮題・平安末期書写）は、菩薩に関する霊験譚（感応譚）と経文の集成から成る一書である。中国六朝時代の『観世音応験記』などの希少な佚文が注目され、先行研究では主にその霊験譚の検討がなされてきたが、本稿では、経文類聚部分を中心に出典を確認し、その内容と本書の編纂方法を検討した。経文類聚部分に引用された要文は、自らが菩薩行の厳しい実践に向かうものよりは、信仰対象としての菩薩の霊験にかかわるものが多い。菩薩の感応譚とともに収録されている点からは、菩薩行よりも尊像の形や陀羅尼の功徳が重視されるのは当然とも言えるが、経文類聚部と感応部とが互いに響き合うことを示している。これは、平安時代の霊験譚と経文の親近性を示すものであるが、室町物語における経文引用とも対比して捉えられる。

（３）後藤昭雄 監修、荒木浩・近本謙介 編『天野山金剛寺善本叢刊 第一期第二巻 因縁・教化』勉誠出版 2017 年 2 月(執筆担当:「佚名孝養説話集」翻刻・解題(pp.409-422，pp.524-530))
天野山金剛寺蔵「佚名孝養説話集」は、幼くして親を亡くした天竺の子どもの物語を集めた説話集で、いずれの話も釈迦とその家族や弟子の前世の物語として描かれている。各話には、典拠とされる経典名が記されているものの、印度中国撰述経典にはその典拠が確認できないという特徴を持つ。日本の疑経や室町物語本地物を考えるための貴重な資料と言える。

（４）後藤昭雄 監修、箕浦尚美・海野圭介・梶浦晋 編『天野山金剛寺善本叢刊 第二期第四巻 要文・経釈』勉誠出版、2018 年 2 月(執筆担当:「第四巻「要文・経釈」概要」(pp.615-620)、「能生諸仏経釈」「佚名諸菩薩感応抄」「捌釈」翻刻・解題(pp.435-597,pp.621-645))
「能生諸仏経釈」「佚名諸菩薩感応抄」「捌釈」はいずれも平安末期から鎌倉初期にかけての仏教説話の貴重資料である。室町物語とは時代も性質も異なるが、挿入説話が長くなった場合に、当初のテーマが見えづらくなる点は同じである。また、経典には見られない独自の興味深い説話が含まれており、そのような形に構成される仏書は、室町物語の饒舌な語りを解明する手がかりになると考えられ、説話の利用方法という視点から比較できる。

（５）箕浦尚美「金剛寺蔵『能生諸仏経釈』に見る平安後期の法華経講説」（『説話文学研究』54、pp.64-75、2019 年 9 月）
説話文学会第 169 回例会（於大阪市立大学、2018 年 4 月 28 日）におけるシンポジウム「寺院における学問と唱導―天野山金剛寺聖教を起点として」（発表者：箕浦尚美・仁木夏実・中川真弓。ディスカッサント：三木雅博・小林直樹。オーガナイザー：箕浦尚美）における自身の発表を纏めたものである。『能生諸仏経釈』は 1184 年の書写奥書を持つ法華経の注釈であるが、室町物語にも法華経信仰を背景にもつ表現や逸話が多く見られ、その表現や思想的基盤を探るためには、このような経釈の方法を検討することも有効である。事物をリズム良く並べて提示する方法や、経典内部の物語を敷衍して説くという説法の姿勢は、饒舌な室町物語に共通する。

（６）箕浦尚美「お伽草子に見る転生観」（『同朋大学 ”いのちの教育 ”センターだより BRIDGE』57、2023 年 3 月）
前世の因縁譚は、本来、輪廻の恐ろしさを伝えることよりも過去世の開示によって因果応報の道理を伝えるものだったと捉えられる。輪廻転生は成仏や往生によって脱却できるとされることから、中世の人々は自身の生死と因縁譚との距離をある程度保つことができたかと思われる。

５．主な発表論文等

〔雑誌論文〕　計2件（うち査読付論文　1件／うち国際共著　0件／うちオープンアクセス　2件）

１．著者名 箕浦 尚美	４．巻 12
２．論文標題 菩薩の霊験譚と要文の集成―金剛寺蔵〈佚名諸菩薩感応抄〉の方法―	５．発行年 2017年
３．雑誌名 同朋文化	６．最初と最後の頁 pp．93-111
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.15076/00000687	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

１．著者名 箕浦尚美	４．巻 54
２．論文標題 金剛寺蔵『能生諸仏経釈』に見る平安後期の法華経講説	５．発行年 2019年
３．雑誌名 説話文学研究	６．最初と最後の頁 pp．64-75
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

〔学会発表〕　計4件（うち招待講演　0件／うち国際学会　0件）

１．発表者名 箕浦尚美
２．発表標題 お伽草子と古典の投企
３．学会等名 国際日本文化研究センター共同研究「投企する古典性―視覚／大衆／現代」平成30年度第6回共同研究会
４．発表年 2019年

１．発表者名 箕浦尚美
２．発表標題 金剛寺蔵『能生諸仏経釈』に見る平安後期の法華経講説
３．学会等名 説話文学会平成30年度4月例会
４．発表年 2018年

１．発表者名 箕浦尚美
２．発表標題 お伽草子「申し子」譚における前世の因縁
３．学会等名 同朋学会学術大会
４．発表年 2017年

１．発表者名 箕浦尚美
２．発表標題 日本における仏伝文学の変容―ベトナム仏教における「釈迦雪山苦行」信仰を考えるために―
３．学会等名 大谷大学真宗総合研究所ベトナム仏教研究班公開研究会
４．発表年 2017年

〔図書〕　計3件

１．著者名 後藤昭雄、荒木浩、近本謙介、中川真弓、仁木夏実、箕浦尚美、米田真理子	４．発行年 2017年
２．出版社 勉誠出版	５．総ページ数 558
３．書名 天野山金剛寺善本叢刊　第一期第二巻　因縁・教化	

１．著者名 後藤昭雄、箕浦尚美、海野圭介、梶浦晉	４．発行年 2018年
２．出版社 勉誠出版	５．総ページ数 660
３．書名 天野山金剛寺善本叢刊　第二期第四巻　要文・経釈	

１．著者名 荒木浩、酒井紀美、今野真二、上野勝之、稲賀繁美、ペトコヴァ・ゲルガナ、グエン・ティ・オワイン、李育娟、ワーイル・アブドエルマクスード、福田義昭、桑木野幸司、伊東信宏、三戸信惠、楊暁捷、箕浦尚美、他	４．発行年 2017年
２．出版社 勉誠出版	５．総ページ数 571
３．書名 夢と表象　眠りとこころの比較文化史	

〔産業財産権〕

〔その他〕

－

６．研究組織

	氏名 （ローマ字氏名） （研究者番号）	所属研究機関・部局・職 （機関番号）	備考

７．科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕　計0件

８．本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関